



書籍名	神社としきたりがよくわかる本	著者名	茂木 貞純
出版社名	リベラル社	発行年月	2024年2月

今月は、お正月を控え神社に関する書籍を紹介します。

神社検定を御存じですか？ 神社検定(神道文化検定)は、神社が好きな人や日本文化をもっと知りたい人のための検定です。第11回(令和6年)の受験者数は2,229人になります。男女はほぼ半々、50代が一番多く受験しています。壹級の受験者は239名、合格率は68.2%、平均点は76.5点とレベルは高そうです。

神道は、日本人の暮らしの中から生まれた信仰です。神道の信仰は祭りという形で現れます。夏の風物詩である祇園祭は八坂神社の祭礼、葵祭は加茂神社(下賀茂、上賀茂神社)の祭礼です。春には豊作を祈る祭り、秋には収穫を感謝する祭りが行われます。古代の人々は万物のあらゆるものに精霊(山、川、草木、大岩、大木…)が宿ると信じ、人間の力を超えたそれらの存在を神として畏れました。本殿、拝殿を備えた神社が登場したのは7世紀以降のこと、もともと神々は大木や岩、山などに鎮まると考えられていました。奈良県桜井市の大神神社は日本最古の神社で本殿を持たず、背後にそびえる三輪山を御神体としています。

8世紀に大宝律令が制定され、国家の仕組みが整備されました。朝廷から特別な崇敬を集めた霊験あらたかな神社二十二社が指定されました。関西地域の二十二社は、石上神社(天理市)、橿原神宮(橿原市)、春日大社(奈良市)、大神神社(桜井市)、住吉大社(大阪市)、京都市は加茂神社、八坂神社、貴船神社、北野天満宮、石清水八幡宮、松尾大社

神社の格式は国が管理していました。11世紀ごろには一宮制度が誕生し、各国ごとに、由緒正しく、多くの崇敬を集めた神社を一の宮として、二の宮、三の宮と続きます。

関西における格式の高い一宮は下記のとおりです。

奈良県1社:大神神社(大和国一宮)桜井市、

大阪府4社:住吉大社(摂津国一宮)、坐摩神社(同左)、枚岡神社(河内国一宮)大鳥神社(和泉国一宮)、

京都府4社:上賀茂神社(山城国一宮)、下賀茂神社(同左)、出雲大神宮(丹波国一宮)、

元伊勢籠神社(丹波国一宮)

神社の「しきたり」と歴史から、その当時の日本人の生活、思い、信心に思いを馳せることが出来ました。

岩 城

編集後記



みなさんは、MCI(Mild Cognitive Impairment:軽度認知障害)という言葉をご存じですか?CMで見てご存じの方もいるかも。MCIとは「脳の機能が健常な状態」と「認知症」の中間の段階で、自立した日常生活を過ごせるものの、記憶や判断などを行う脳の機能(認知機能)がいくらか低下している状態を指す。認知症そのものではないが、健常な状態でもなくその中間のような状態。MCIの状態からさらに認知機能が低下し、日常生活に支障をきたし介護が必要な状態になると、認知症と診断(MCI後1年で5-15%は認知症に) 2022年時点でMCIの人は558万人、65歳以上に占める割合は15.5%であり、高齢者6.45人に1人、2040年には612.8万人に増加 認知症推計者の584.2万人を上回る見通し。認知症予備軍といわれるMCIだが、必ずしも認知症に進行するわけではなく、原因によっては現状が保たれたり、健康な状態に回復することもある(MCI後16-41%)具体的には▼もの忘れや探し物が増えたり▼同じ話を繰り返したり▼話しやすくなったり▼ぼんやりすることが増えたりする などと言われていて、家族など本人に近い人が気付くことも多いとされる。 兵庫県たつの市兵庫県立リハビリテーション西播磨病院が今年3月までの2年間にMCIと判断された159人とその家族を対象に行ったアンケートによると、本人に、今の困りごとは何かを尋ねたところ、最も多かったのは「もの忘れ・置き忘れ」で49%とほぼ半数。自覚症状有。 ある会社が行った調査で「MCI」の認知率は12%、理解度は2%と低い結果に。CMでは「それ、さっきも言ってたよ」と娘に心配される母親が歳のせいかと思っていたもの忘れが実はMCIによるものと知り医師に相談にという展開に。ただ、医師の診断が難しいらしく、MCIと認知症との線引きが曖昧と聞く。医者をもっと老年医学の理解度をあげる!家族や、もちろん高齢者本人自身も早目に気づき早目に 発行所:ライフデザイン研究所 編集人 伊藤 手を打つ!一筋縄ではいかないよとぼやかないよう、子供世代は準備万端に!

